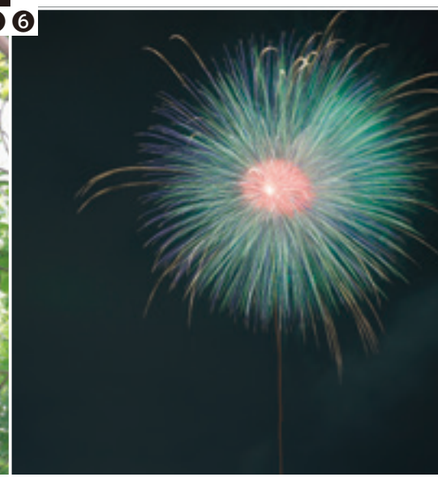
二度と繰り返さないために

戦火の記憶を次の世代へ

❶ 市内複数の神社・寺院・教会で行う前橋空襲一斉慰霊（写真は前橋カトリック教会）。前橋空襲が起きた8月5日に、毎年開催しています
❷ 前橋空襲追悼碑（住吉町二丁目）。毎年8月5日に慰霊式典を開催しています
❸ 前橋空襲を題材にした市民ミュージカル
❹ 終戦記念日の8月15日に毎年開催している戦没者追悼式。本市戦没者に対し哀悼の誠を捧げます
❺ 広瀬川河畔にある太陽の鐘。8月5日の一斉慰霊では慰霊の鐘を鳴らしています
❻ 前橋花火大会の第1回目は昭和23年、戦後の復興祭として開催され、形を変えながら現在も続いています



昭和20年8月5日、前橋空襲。この日、空襲によって市街地の8割が破壊されました。当時の戸数は全市2万871戸。この内、全半焼合わせた被害戸数は1万1,518戸、実に半数を超える家々が失われました。死者は535人、負傷者は600人以上。本市に甚大な被害をもたらしたこの前橋空襲から、今年で74年―。

終戦直後から、復興に向けて市民は立ち上がり、現在の前橋の基礎をつくりました。今の私たちの平和な暮らしは、先人たちの努力がなければ実現しなかったものでしょう。しかし、74年もの月日が経過し、戦争や空襲、戦後復興の記憶を語ることができる人は少なくなってしまいました。

今号は終戦記念日と同じ、8月15日号。忘れてはならない戦争の記憶を次の世代につなぐため、多くの市民が動いています。今号ではその一部を紹介。この機会に、平和や命の尊さについて、改めて考えてみませんか。

問 市政発信課
☎027-898-6642

米国国立公文書館蔵
焼け跡に残る土蔵や煙突

米国国立公文書館蔵
空襲後に残った前橋カトリック教会

映画監督　飯塚 俊男さん

戦火の記憶を映像にして次の世代へ

戦争体験を多くの人に見てもらうために、映画「陸軍前橋飛行場～私たちの村も戦場だった」を制作しました。取材をする中で、戦争に関する文書や軍服、武器などを燃やしたり埋めたりしていたという悲しい話を聞きました。記憶をつないでいくためには、当時のことが分かる貴重な記録や物は大切にしたいものです。

前橋空襲の話に対して、「ひどいことがあったんだ」だけではなくて、「なぜこうなったのか、どうすればこうならなかったのか」を考えることが非常に重要です。戦争は二度と繰り返してはならないもの。戦争体験者の記憶を、次の世代、また次の世代に伝え続けることが、今を生きる私たちの使命だと思います。

子どもたちに前橋空襲があった事実を語り継ぐ

私は昭和19年生まれ。生後10カ月の時に空襲に遭いました。母の背中に背負われて幸の池のところにあった防空壕に逃げ込んだと聞いています。私は赤子だったので、戦争をはっきりと覚えていません。また、先輩方も、記憶が薄れてきたり、亡くなってしまったりしています。だからこそ今、自分たちが住む町で起きた事を次の世代に伝えないといけないと思い、朝のラジオ体操の後に、「前橋空襲を語る会」を開催しました。語り手になっていただいた戦争体験者の皆さんは、ラジオ体操に来ている子どもたちと同じ小学生の頃、空襲に遭っています。子どもたちにとって、当時同い年だった人が空襲に遭った事実を知ることは、平和を考えるきっかけになると思います。できる限り、この活動を続けたいです。

住吉町一丁目自治会長
橋本 光弘さん

平和のバトンをつなぐために

本市がかつて経験した大惨事。この悲惨な出来事を風化させないためには、戦争を体験した人々の言葉を心にとどめながら、次の世代に平和や命の尊さを語り継いでいかなくてはなりません。

平和のバトンを次の世代につなぐために、一人一人が、できることから始めてみませんか。

橋林寺（住吉町一丁目）で開催された前橋空襲を語る会。戦争体験者による話や、パネルを使った解説も実施しました